

第1回南区自治協議会 議事概要

- 日 時 令和4年4月27日(水) 午後2時～午後3時10分
- 会 場 新潟市南区役所4階 講堂
- 次 第
- 1 開会
 - 2 南区自治協議会委員推薦会議の報告について、委嘱状交付
 - 3 議事
 - (1) 「南区まちづくり活動サポート事業」の審査員について
 - (2) 附属機関の委員の推薦について
・新潟市総合計画審議会委員
 - 4 部会報告
 - 5 報告
 - (1) 新潟市南区と新潟県立白根高等学校との連携・協力に関する協定締結について(白根地区公民館)
 - (2) 白根ハーフマラソンについて(地域総務課)
 - 6 その他
 - 7 次回全体会の日程について
5月25日(水) 味方出張所 午後2時から
 - 8 閉会

事前配布資料

- 資料1 「南区まちづくり活動サポート事業」の審査員について(案)
- 資料2 新潟市総合計画審議会委員の推薦について(依頼)
- 資料4 新潟市南区と新潟県立白根高等学校との連携・協力に関する協定締結について
- 資料5 第35回白根ハーフマラソン
- 参考資料 南区自治協議会委員名簿(令和4年4月1日現在)

当日配布資料

- 資料3-1 南区自治協議会第1部会 会議概要
- 資料3-2 南区自治協議会第2部会 会議概要
- 資料3-3 南区自治協議会第3部会 会議概要

出席委員： 関川秀明委員，田中美智郎委員，久保安夫委員，豊木 宏委員，
有田正己委員，鞠子幸一委員，富井 敦委員，笹川和代委員，
山坂和夫委員，中丸ちえ子委員，渡邊喜夫委員，大矢洋子委員，
宮崎岩男委員，板谷昭人委員，大籾英之委員，日浦 徹委員，
松尾正行委員，野沢文江委員，小嶋ノリ委員，阿部隆一委員，
高橋直廣委員，西山久子委員，半間奈菜委員

以上23名

欠席委員： 井上吉一委員，川村朋生委員，小林正義委員，星野 誠委員，
鈴木皓旦委員，佐藤隆行委員，荏原宏美委員

事務局：(南区) 五十嵐区長，山際副区長，藤野区民生活課長，佐藤健康福祉課長，
石崎産業振興課長，細貝建設課長，小菅南区教育支援センター所長，
鈴木地域総務課長補佐，高橋地域総務課長補佐，地域総務課職員，

和田白根地区公民館長，滝沢農業委員会事務局南区事務所長
〔Webによるリモート出席（南区）〕川村味方出張所長，登石月瀉出張所長

報道 0名
傍聴者 0名

（午後2時00分）

1 開会

○事務局（鈴木地域総務課長補佐）（配布資料の確認）

○議長（高橋会長） 皆さん，ご苦勞さまでございます。冒頭，私からは私がまちあるきガイドをしていて，たくさんの白根の宝ものを見つけ出すことができたということについては，お話をさせていただいたこともあります。この自治協議会の皆様方にも，折を見て，とっておきの見どころを紹介していきたいと思っております。今日は，二の町にあります築100年の蔵について，紹介をしたいと思います。

これは白根町長になる1年前の大正12年（1923年），野澤吉太郎が建てた蔵です。配水塔のわきの白根庭園も野澤家の庭園であります。翌大正13年から昭和20年までの22年間，町長を務め，白根銀行，あるいは蒸気船白根丸の運行会社を設立し，理研電線を誘致した人です。

昭和6年の白根大火後，現在の第四北越銀行白根中央支店の旧白根町役場と国の登録有形文化財の旧配水塔も野澤町長の時代であります。役場と旧配水塔は，デザインが似ておりますのは，設計者が同じであります。50年前，蔵の周囲10軒が焼け出される火災がありました。この蔵も大部分は消失してしまいましたが，吉太郎の子孫は，その蔵を再建しました。現在のオーナーは東京在住で，今は空き家となっておりますが，そのオーナーの配慮を得て，タウンガイドがまちあるきの際にご案内をしてきているものです。2階は30畳の大広間になっています。火災に遭う前は，白根銀行の帳簿，あるいは白根丸の船具などが保管され，再建後は住まいとして使われた貴重な宝ものと言えましょう。いかにこの貴重な蔵を今後，活用していくか，現在，模索しているところです。ぜひ見ていただきたい白根の宝ものの一つだと思っております。

それでは，本日の会議を進めます。

欠席者の報告

傍聴者の報告（所定の手続きを経て，傍聴していることを報告）

2 南区自治協議会委員推薦会議の報告について，委嘱状交付

○議長（高橋会長） 2，南区自治協議会委員推薦会議の報告について，委嘱状交付に入ります。委員推薦会議の座長であります渡邊委員から報告をお願いいたします。

○渡邊委員 南区自治協議会委員推薦会議座長の渡邊です。

南区自治協議会委員推薦会議の報告をいたします。令和4年3月31日付で臼井地区コミュニティ協議会西協博委員，白根青年会議所五十嵐一也委員，南区観光協会大那孝委員，支え合いのしくみづくり協議体渡辺卓也委員から辞任の届け出があり，同年4月1日付で後任に臼井地区コミュニティ協議会から豊木宏氏，白根青年会議所から鈴木皓旦氏，南区観光協会から板谷昭人氏，支え合いのしくみづくり協議体から荏原宏美氏の推薦がありました。豊木宏氏，鈴木皓旦氏，板谷昭人氏，荏原宏美氏を後任委員として決定することについて，南区自治協議会委員推薦会議運営要綱第8条第1項の規定により，推薦委員会議座長の専決処分を行ったことを報告いたします。報告は以上です。

○議長（高橋会長） 渡邊委員ありがとうございました。

なお，新潟市区自治協議会条例施行規則第3条第5項の規定では，委員の推薦に関し，区自治協議会があらかじめ議決により指定した事項，つまり団体選出委員が任期途中において欠けた場合は，後任の団体推薦委員候補者については，推薦会議の議決をもって，自治協議会の議決となります。すでに市長への推薦を行い，豊木委員，鈴木委員，板谷委員，荏原委員は，令和4年4月1日付で市長からの委嘱が決定したことを報告いたします。

ただいまの報告についてご質問がありましたらお願いいたします。ないようですので，委嘱状

の交付を事務局からお願いいたします。

○事務局（山際副区長） それでは、これより豊木委員、板谷委員への委嘱状を交付いたします。なお、鈴木委員、荏原委員につきましては、本日、所用のため、欠席しておりますので、委嘱状は後日、事務局よりお渡しさせていただきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

○五十嵐区長（委嘱状交付）

○議長（高橋会長） それでは、本日、お二人の委員が出席しておりますので、まずは豊木委員から一言あいさつをお願いいたします。

○豊木委員 臼井地区の豊木でございます。こういった大きな会議は不慣れですので、皆様にご指導いただき、何とか任期を務めたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

○議長（高橋会長） 続いて、板谷委員をお願いします。

○板谷委員 はじめまして。南区観光協会のほうから推薦されまして、今回、こういうところに出させていただきまして、少し恐縮するのですが、なかなかこういう会議は右も左も分からないのですが、白根、南区のために、また意見を一つでも二つでも言えたらと思ひまして、いい方向に向かうように協力したいと思ひますので、よろしくをお願いします。

○議長（高橋会長） 南区自治協議会委員推薦会議の報告、委嘱状交付はこれで終わりといいたします。

3 議事

（1）「南区まちづくり活動サポート事業」の審査員について

○議長（高橋会長） それでは、次第3（1）「南区まちづくり活動サポート事業」の審査員について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（山際副区長） 事務局の地域総務課です。

議事の（1）の「南区まちづくり活動サポート事業」の審査員についてご説明いたします。今年度で5回目となります。当事業につきましては、去る3月17日に募集説明会を開催しまして、12団体からご参加いただきました。今月の15日（金）で応募は締め切っており、8件の申請がございました。資料1をご覧ください。審査員構成メンバーの案でございます。当事業につきましては、優れた事業提案をした企業や団体に対しまして、区自治協議会が事業委託するものであることから、より多くの自治協議会委員の皆様から選考作業に携わっていただきたいと考えております。以上のことから、南区自治協議会会長の高橋委員、副会長の久保委員、笹川委員に加えまして、今年度から第1部会長の鞠子委員、第2部会長の小嶋委員、第3部会長の富井委員と事務局の地域総務課長を加えた合計7名で審査に当たることという案になっており、この審査員の案を皆様にお諮りするものでございます。なお、了承していただきましたら、5月上旬に書類選考による第1次審査を行ひまして、その後、プレゼンテーションによる2次審査を5月の中旬から下旬ごろに実施をしまして、採択団体を決定する予定でおります。説明は以上となります。よろしくをお願いいたします。

○議長（高橋会長） ただいまの説明について、ご質問がありましたらお願いいたします。ないようです。南区まちづくり活動サポート事業の審査員については、案のとおりとしてよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、南区まちづくり活動サポート事業の審査員については、これで終わりといいたします。

（2）附属機関の委員の推薦について

○議長（高橋会長） 続いて、次第3（2）附属機関の委員の推薦について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（山際副区長） 引き続き、地域総務課からご説明させていただきます。

まず、資料2の裏面をご覧ください。表題が新潟市総合計画審議会の設置についてとなっている面でございます。本市では、市政運営におきます最上位計画であるこれからのまちづくりの方向性を示す次期総合計画の策定を現在進めておりますが、その策定にあたりまして、新潟市総合計画審議会を設置して、学識経験者のほか、各分野で活躍されております団体の代表、地域の代表、公募市民など、幅広い分野の委員を選任して、専門性や分野別の見識に加え

て、市民の視点などからご意見をいただくこととしております。そのために、また表面の1ページ目に戻っていただきたいと思いますが、この依頼文のように、自治協議会あてに委員1名の推薦依頼が来ております。1の委嘱期間は、第1回会議の開始日、予定として6月下旬ごろから令和5年3月31日までが委嘱期間となります。審議会の会議は、年6回程度で、所要時間は各回2、3時間程度。主に平日、昼間に開催するとなっております。本会議でご協議のうえ、南区自治協議会の委員として1名の委員の選出をしていただきますよう、お願いいたします。説明は以上でございます。

○議長（高橋会長） ただいまの説明について、ご質問がありましたらお願いいたします。いらっしやらないようです。ただいま説明のありました附属機関の委員推薦について、立候補または推薦される方はいらっしやいますでしょうか。

○松尾委員 1名という推薦なので、ここは会長が一番適任だと私は思っていますので、高橋会長からお願いできればと思っています。推薦します。

○議長（高橋会長） ほかにいらっしやいませんか。特にやりたいという方がいらっしやらなければ、今、たまたま松尾委員から高橋にということであったので、私がこの委員を担ってよろしいでしょうか。ありがとうございます。では、私のほうでお引き受けしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、附属機関の委員の推薦については、これで終わりとなります。

4 部会報告

○議長（高橋会長） 続きまして、次第4、3つの部会の報告について、部会の検討状況を各部長から報告をしていただきます。はじめに、第1部長から報告をお願いします。

○鞠子委員 第1部会において、4月13日の午後に本年度の第1回目の会議を行いました。会議の内容につきましては、年間スケジュールとして、令和4年度の年間スケジュールの情報共有を図りまして、その他、年間を通ずる審議議題や、特に特色ある区づくり事業に関する提案事業のスケジュール等について確認をしました。

2番目ですが、令和4年度、第1部会が行う南区の防災啓発事業ということで、特に計画しています防災マップづくり。この前、庄瀬のほうでここで発表なさった内容等を参考にしまして、今後の検討を行いまして、引き続き、この作業を続けていきたいと考えております。

2番目といたしまして、令和3年度に各地域の第1部会においてアイデアを盛り込みました。マイ時刻表というものを作ったというような状況で、今後、どのような形で効果的に使うかというような形で検討しておきました。このマイ時刻表ですが、先日も新潟日報から取材がありまして、南区でこういうことをやっているのは、ほかの地域にとっても刺激になるのではないかと、記者の方から褒められたという状況があります。新潟日報の人は、やはりどこでも区バスの利便性がないとか、いろいろな苦情が出ているのだけれども、なかなか改善が難しいというような話も逆に聞きまして、地域でこういう形で盛り上げるのをほかのところにも情報共有を図ってきたいというお話をされておりました。余談ですけれども以上です。

次回は、5月11日午後に行いたいと思います。

○議長（高橋会長） 続いて、第2部長から報告をお願いします。

○小嶋委員 第2部会は、4月14日に行いました。年間スケジュールについて、事務局から説明をしていただき、その議題等について、特色ある区づくり事業の検討及び取り組みスケジュールについて確認しました。

第2部会提案事業について、一つ目、家族ふれ愛事業。平成24年度より継続してきた本事業の趣旨を改めて確認し、見直すべきところがないか議論しました。子どもたちがさまざまな家庭環境にあるとともに、あることに配慮して、募集テーマの「家族ふれ愛」を広い意味でとらえてもらえるよう、募集チラシの表現方法等を改善していくことになりました。そのほか、本事業のブラッシュアップに向けた意見交換を行い、次回部会でアイデアを出すことにしました。

二つ目の出会いの場づくり事業について、昨年度は女性参加者が募集人数に達しなかったという反省点を踏まえ、女性の心をつかむプレゼントなどがあるといいのでは、周知時期をもっと早めたほうがよい、ラジオやテレビの掲示板などの媒体を利用し、もっと広く告知してはどうかと

いう意見が出ました。次回の部会では、委託業者選定に向けて仕様書を作成することにしました。次回部会の開催予定は、5月12日です。

○議長（高橋会長） 続いて、第3部会長から報告をお願いします。

○富井委員 第1、第2部会と同じように、年間スケジュールについて検討しました。日にちは、4月12日（火）です。年間スケジュールを基に、早めに日にちを設定して、進めていくようにということを進めました。

まず、1番のしろね大凧と歴史の館の展示替え。これは床面ラッピングとかいろいろありますけれども、それは次回までに、一人ひとりがこれがいいのではないかということと言えるように検討してくるということで宿題としました。

2番目のまちなか活性化事業ですが、南区のイベントと同時開催するかとか、市の日に合わせてやるとか、いろいろ案が出ていたのですけれども、これも早めにスタートしないといろいろなところの協力を得られないので、早めに、少なくとも次回には決定するというで調整いたしました。

その他は、次回、5月10日に開催することといたしました。

○議長（高橋会長） ただいまの説明について、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。なければ、部会報告はこれで終わりいたします。

5 報告

（1）新潟市南区と新潟県立白根高等学校との連携・協力に関する協定締結について

（白根地区公民館）

（2）白根ハーフマラソンについて（地域総務課）

○議長（高橋会長） 続きまして、次第5（1）新潟市南区と新潟県立白根高等学校との連携・協力に関する協定締結について、白根地区公民館から説明をお願いします。ご質問につきましては、次の報告事項白根ハーフマラソンについての説明が終わりましたら、一括してお聞きしたいと思っております。ではお願いします。

○和田白根地区公民館長 それでは、資料4新潟市南区と新潟県立白根高等学校との連携・協力に関する協定の締結についてをご覧ください。

4月17日の区だよりに掲載し、区民の皆様にもお知らせしているとおり、南区と南区唯一の高校である白根高校は、去る3月16日、白根学習館ラスペックホールにおいて、地域の発展と次世代を担う人材を育成するため、連携・協力に関する協定を締結いたしました。これまでも公民館では、区づくり予算を活用して、白根高校とのまちづくり連携事業により、高校に地域コーディネーターを配置し、白根高校が積極的に取り組んでいるボランティア活動を支援するほか、高校生の柔軟な視点や感性を生かして、さまざまな地域課題に取り組んでまいりました。今後も相互の密接な連携と協力のもと、また南区役所関係各課とともに、南区の将来を担う若者の人材育成と郷土愛の醸成を図りながら、若い力をまちづくりに生かし、活力あるまちづくり、持続可能なまちづくりにつなげていきたいと考えております。

囲みの部分は、協定書に記載している連携・協力事項です。一つ目は、地域を担う人材の育成に関すること。二つ目は、まちづくり及び地域課題の取り組みに関すること。三つ目は、地域福祉の向上、地域産業の振興、伝統文化の継承、安心安全なまちづくりに関すること。四つ目は、これらの活動を推進するために、南区は白根高校に地域コーディネーターを配置することができると協定書に明記しております。

裏面をご覧ください。こちらは、締結式の概要です。締結式は白根高校生や関係者など、ご来場の皆様が見守る中、少林寺拳法部の演武披露で開式いたしました。その後、協定書への署名、記念撮影に続き、区長、校長のあいさつがあり、協定締結の意義と抱負を述べていただくなど、連携、協力をさらに深めていくことを確認しました。区長、校長のあいさつについては、要約して記載しております。後ほど、ご確認していただきたいと思っております。

また、この資料につきましては、公民館のホームページにも掲載し、広く周知をしています。以上、公民館からの報告を終わります。

○議長（高橋会長） 続きまして、（2）白根ハーフマラソンについて、地域総務課から説明を

お願いいたします。

○事務局（山際副区長） 資料5をご覧ください。第35回白根ハーフマラソンについてご報告させていただきます。来月の5月8日（日）になりますが、3年ぶりに白根ハーフマラソンを開催する予定です。いろいろとこれまで、新型コロナウイルスで中止が続いたのですが、今回につきましては、新型コロナウイルスの感染対策を徹底するということで、参加者を県内在住者に限定しまして、参加者数をこれまでの2,000人から1,000人に限定して、密集が予想されますので、開会式と表彰式を取りやめて、密集回避を図ります。また、種目もこれまでハーフ、10キロ、5キロ、2キロの4種目からハーフと10キロの2種目に絞って開催いたします。また、レース前に参加ランナーに対して、大会7日前から体温測定結果などを記入したシートの提出を求めて、健康管理のチェックを徹底していきます。参加ランナーにつきましては、3月31日に応募を締め切りまして、ハーフで740人、10キロは474人、合計で1,214人エントリーをしております。例年ですと、約1割くらい、当日、欠場するというようなことですので、エントリーは1,200人ほどですが、当日の参加者は約1,000人弱を見込んでおります。これまで、小林地域の皆様には、毎年、コース沿道のごみ拾いをさせていただくなど、地域の皆様やスポーツ関係の団体の皆様からご協力をいただき、運営をしているところですが、今回はこういった感染対策を徹底して、安全な運営に努めてまいりたいと思います。

資料の裏面は、コース図となります。各ポイントでの通過予想時間を記載しております。また、万年交差点の辺りですとか、★印が3か所ほどついているところが地図にありますけれども、この★印の交差点では、渋滞が予想されますので、地域の皆様におかれましては、レースの時間帯は迂回していただくなど、ご注意をいただければと思っております。説明につきましては、以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（高橋会長） ただいまの二つの説明につきまして、ご質問がありましたらお願いいたします。

○鞠子委員 質問というわけではないのですが、資料4の白根高校の連携・協力に関する協定の締結というところなのですが、今現在、私が知っているところ、白根高校はたしか2クラスで3学年。1クラス40人で、南区の在住の子どもたちは、半分もいないと。いても半分くらいだというような観点からして、ましてや余計なことですが、若干定員割れをしているとか、いろいろな事情がある中で、これ自体はいいことなのですが、残念ながら南区に住んでいる子どもたちの多くは、南区外へ行くということが非常に多いわけですね。ですから、ここで言っている協力事項で、地域を担う人材の育成に関することというものに関して、白根高校だけに特化するということも大事なのですが、何か違う方策もゆくゆくのことを考え、この自治協議会の中でアイデアを出しながらやっていくということも一つの考え方ではないかと。変な言い方、大学がある区とか、高校が多い区は、そこに住んでいる人よりも、ここから行っている人間のほうが多いわけじゃないですか。だから、何かそういうものを公民館主体なのか、地域主体なのか考えて、また中学校のときから、地域ボランティアの方を育成するような、何かの仕組みを考える時期にきたのではないかと、私の頭の中にはあるのです。だから、これは毎年、やることは白根高校は当然なのですよとなるのですが、そういう将来的なことも考えて、一つ考える期間があってもいいかという提案というか、お願いというか、希望とかという形になります。参考までです。

○議長（高橋会長） 今の鞠子委員の提案については、大変いい発想で、そういったものも本当に大事だなと感じて聞いておりましたが、この件に関しては、区長から少しコメントがありますので、お願いいたします。

○五十嵐区長 鞠子委員どうもありがとうございます。鞠子委員の言われるとおりで、人口減少が進む中、子どもたちが少なくなっているということは、皆さんご承知のとおりかと思えます。それは南区だけではなく、ほかの区も同じような状況になっております。それで鞠子委員の提案のように、新潟市全体または新潟市だけではなくて全国、県内全部、そういう状況になっている中で、どのようにやっていくかということとはなかなか課題になっている部分がございますので、またこの自治協議会でそういうご提案をいただきながら、さらにいい人材育成の方向性が見つかれば、私としてはありがたいと思っております。ただ、これまで南区、私も区長として2年間や

ってまいりましたけれども、まちづくりというのは人づくりなのだと思っております。300年の歴史のある風合戦が、ここまで300年間続いてきたということは、それを続けようという思いを持った人たちがいてこそ、続いてきているものでございます。行政がやってくれというやってきたものではございません。地域の人たちが、風合戦、伝統文化を守っていこうという思いでやってきている。そういう思いを持った人が地域にいるということが、私は南区にとって、新潟市にとって大切なことだと思っております。

それで、先ほど、バス、区バスの問題とか、南区は電鉄がないとか、ほかの区に比べたら多いものが多いというような認識も持たれるかもしれませんが、私区長としては、この自治協議会及びコミュニティ協議会、それから創生会議、青年会議所、各NPOの団体、ボランティア団体の方を見ますと8区の中で一番地域を思う方々がそろっている地区と思っております。そういう面から、さらに将来、人材を育成していくために、南区においては、これまでも区づくり事業で小学校、中学校に対しては、未来創造教室ということで、他の区にはない事業として小学校、中学校に地域と一緒に何かやるのに使えるよう予算立てをしております。さらに今回、連携協定ということで結ばせていただきましたが、白根高校についても、コーディネーターを配置しまして、地域と高校、それから我々行政と連携が取れるコーディネーターを県立高校ではございますが、南区の予算を使って配置させていただいてきました。

さらに昨年度からは、保育園についても、環境教育を通して、地域の方と保育園が連携を取れるような形で事業を開始したところでございます。ということで、私は、まちづくりは最初言ったように、基本は人づくりだと思っております。我々区役所としても、将来を見据えて南区、それから新潟市を担っていただける人材をしっかりと育てていきたいと思っておりますし、自治協議会の皆様におかれましても、先ほど、鞠子委員の言われたように、将来を見越して、自治協議会のほうでも話題としていただければありがたいなと思っておりますので、引き続きのご理解、ご協力をいただきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

○議長（高橋会長） ほかにございませんか。

○日浦委員 今の関連でございますけれども、白根高校はご存じのように、今、鞠子委員がおっしゃったような現状を抱えているわけですが、新潟市として最低限、区の中で、1校は死守していくという強い気持ちを持って、県立高校ですので、県のほうに働きかけるという姿勢を強く持っていただきたいと。やはりなかなか私も3学級から2学級に減るときに、県のほうへ要望に行ったことがあるのですが、ただ、やはりこれはどこの高校もそういう現状があって、県のほうでは見直した以上は、もう変えられないと。よほどじゃないと変えられませんよと言うような話で、その場は終わってしましまして、それで2学級という形になってしまったのですが、そのときには、やはり新潟市として、ぜひ南区に1校、この高校は外せないのだよと。それはなぜかというところまで突き詰めて、県のほうに要望をしていただきたいと思っております。

○議長（高橋会長） では、区長からお願いします。

○五十嵐区長 ありがとうございます。何年前かに3学級から2学級に減るという段階で、南区の皆さんから非常に心配のお声をいただいて、要望活動もしていただいたというような、私も地元におりましたので思いがあります。私も幸い区長となりましたので、今回の連携協定については、そう言う意味もあるということは、ご理解いただきたいと思っております。地域、行政、みなさんが白根高校を支えていけるよう、この協定で表したということも、一つ協定の意味合いがあると私は思っております。全日制の普通高校で、この協定を結んだということは、県内で白根高校が初めてでございます。過去何年前の経緯も踏まえて、私もそれは十分、胸に思っておりますので、そういう思いがあるということもご理解いただければと思っております。

○松尾委員 今、白根高校の件については、区長から説明があって、十分理解できますし、今後に生かしてほしいのですが、白根高校というのは、南区の大事な高校なのです。そのために学校の問題点があれば出していただいて、そして我々が協力できるものは協力していかないと、いつまでたっても、2学級になればまた下がるのではないかという方向ではなくて、上げる方向のためにどうするかということだと思っております。やはり今、ここにも資料がありますが、コロナ禍でのハーフマラソン、コロナ禍でどうしても感染防止のために無理してやらない方向で、

慎重にやっている方向がけっこうあるのですよね。そうするとだんだん下がっていく方向に行くのですよ、役員も、活動家も。結局、今まで白根高校でもそうでしょうし、ハーフマラソンもそうですけれども、今まで楽しんでしまうと、土日は休んだほうがいいよなという先生がけっこういるのです。今までは、土日は活動しなければならぬので大変だったという思いで一生懸命やっていた先生たちも、コロナで土日が休みになった。非常に家庭的にも楽だと、自分も楽だと。そういうことに入っていくのです。とりとめもないですけれども、要するに白根高校だったら魅力は何があるのかと。私はスポーツだったら、何とか協力してくれといたらボランティアで行きますよ。そのような形で声をかけていただいて、問題点を出していただいて、それを白根高校で解決するのではなくて、我々が解決していくということの気持ちがないと無理だと思います。

それとハーフマラソンも一緒に、気持ちは同じなのですが、やはり2,000人の人数をハーフマラソンでやっていこうということですが、結局、コロナでやめはじめたら、やはりだんだん縮小していく。私は、予算を作った以上はやっていくという気持ちで、そして結果的に今の状況はこうだよということで対策を立てていかなないと、いつまでたっても逃げの方向が多くなっていくので、確かにコロナは怖いですが、でも、どこかで進めないと、これがいけないような形になっていると私は感じます。そういうことから、ぜひ問題点があって、出していただいて、協力してくれということならやりますので、一つお願いしたいと思います。

○議長（高橋会長） 激励ということで受け止めさせていただいてよろしいでしょうか。

○阿部委員 私のほうからは、まずこの協定のつくりの仕組みが分からないのですけれども、白根地区公民館から今、発表があって、新潟市南区と県立高校が協定を結んだと。この主体というのは、白根地区公民館なのでしょうか。その辺のところのつくりをお聞かせください。

○五十嵐区長 ありがとうございます。南区の区づくり事業においては、区の中の5課の組織、それから公民館を入れた形で、区づくり事業を行っております。区役所、公民館という垣根を取り払って、区づくり事業を進めているわけですので、ちょうど公民館がコーディネーターを配置する予算を主体的に持って、コミュニティコーディネーター事業として、これまで取り組んでまいりました。その関係性もあり、公民館で主体的に段取りをして、コーディネーターの配置についても行っています。さらにこれまでの公民館事業、それから南区における連携事業というものを取り組む中で公民館のほうから主体的に動いていただいておりますが、あくまでも協定は、南区役所と公民館という形ととらえていただきたいと思います。

○阿部委員 そうしますと、この協定について、だれがどのような形で、どの時期に評価するのでしょうか。

○五十嵐区長 協定を結んだからといって、具体的に区づくり事業の中で予算化している状況ではございませんけれども、区づくり事業の中の白根高校との連携事業というものをやってきておりますので、そこの中でまずは予算的には評価していただきたいと思います。この連携協定については、先ほど、皆さんにご説明したとおり、連携協定を結ぶということで、地域の皆様、自治協議会の皆様にも、白根高校の現状、これからの子どもたちのあり方というものをとらえて、認識していただくという目的もあります。連携協定をきっかけに、より一層、白根高校のことを思っていていただき、考えていただきたいと思います。

○阿部委員 すみません、実際、この1から4の協力事項と連携の中で、何に予算がかかるかといったら、地域コーディネーターに依頼するというので予算がかかると。この事業というのは、地域コーディネーターに依拠して、依存して、この締結が成り立っているととらえようと思えばとらえられるということで、大変、その部分では、今ほど、いろいろな委員から言われたように、気持ちだけが先行して、実際はその程度なのだと。あるいはその程度といったら失礼なのですが、その形しかないのだということに、私はどうもこの締結というものは、言葉が先行して、イメージが先行して、実質はどうかという部分は何も起こらないのではないかと、危惧しているところなので、ぜひそういう部分は厳しい目で振り返りながら、評価をきちんとして確かめながら、進めていただきたいと思いますというのが私からの意見です。

○五十嵐区長 ありがとうございます。そういう評価も当然予算が伴うものでございますので、見ていただきたいと思いますし、今年度、この締結を結んだということで、地域の人たちのご協力をぜひ頂きながら、白根高校を盛り上げて頂きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申

し上げます。

○議長（高橋会長） ほかにございますか。

○久保委員 ここに、これまでも、南区では特色ある区づくり事業予算を活用し「白根高校とのまちづくり連携事業」によりということ、今までの連携事業について、どういったことをしてきたのかということをお教えいただければと思います。

○和田白根地区公民館長 それでは、白根地区公民館から話をさせていただきます。

これまでの話のとおり、白根高校とのまちづくり連携事業は、南区の特色ある区づくり事業予算を活用し、公民館が所管する事業です。その予算で、白根高校に地域コーディネーターを配置し、白根高校が積極的に取り組んでいるボランティア活動を円滑に実施できるよう、多忙な教職員に代わって、さまざまなボランティア活動の段取りや、橋渡しを行っているものです。このたび、この協定締結に合わせまして、令和4年度からはこの白根高校とのまちづくり連携事業において、しろみな塾という事業を展開します。このしろみな塾というのは、地域課題に取り組む白高生をとという意味でございまして、白根高校と南区、地域の皆さんとともに地域課題に取り組む塾というところから名づけたものです。白根高校生が、地域の皆さんから地域が抱える課題を学び、高校生の柔軟な視点で解決方法を考え、そのアイデアを地域の皆さんを前に発表するというもので、おおむね12名程度の意欲ある生徒を募集して、実施したいと思っています。そして、生徒らが提案したアイデアは、白根高校の授業カリキュラム、総合的な探究の時間の中で、フィールドワークを通して実践するしろみな塾実践編につなげていきたいと考えています。このしろみな塾を実施するための予算として、このたび、30万円の予算を計上させていただきました。そうした取り組みを白根高校とのまちづくり連携事業でやっていきたいと思っています。また、このほかにも、公民館が実施している、夏休み子ども体験事業というものがあります。ここでは、白根高校の生徒たちが子どもたちに段ボールや牛乳紙パックなどを使って工作を指導する。交流事業も行っておりまして、異年齢交流による生徒の学びを深める取り組みなどを実施しています。公民館では、白根高校とこうしたかかわりを通して、高校生たちの学びを深め、若者の人材育成に努めていきたい。そのように考えています。

○久保委員 今までやってきたボランティア活動というのはどのようなものがあるのでしょうか。例えば、昨年、小林地区では、保健会とタイアップして、健康診断の受診率が非常に低いということで、白根高校生からパンフレットを作ってもらって、高校生と地元の地域の人と一緒に回って、健康診断を受けてくださいという個別訪問をやったわけですが、そういったものも入っているのですか。

○五十嵐区長 私のほうから昨年取り組んだ白根高校の具体的内容を皆さんに説明させていただきたいと思います。

昨年度、今、久保委員が言われたように、白根高校の1年生が、私がよくコミュニティ協議会で話す、南区の健康状態というのは、8区の中で一番喫煙が多く、飲酒が多く、それでいて運動不足だという傾向がございます。それを保健師から話を聞いて、高校1年生の皆さん、12チームが、自分たち独自にこのようなチラシを作ってくれました。12種類ございます。「健康診断行こうぜ白根高校生から皆さんへ」ということで、協力いただいた小林地区にこのチラシを持って訪問して、ぜひ健康診断へ行かれるよう、12チームが小林地域を回っていただきました。小林地区の皆様についても、あたたかく出迎えていただいて、白根高校生が来る時間に合わせ、玄関口で待っていただいたと聞いています。チラシを持っていった白根高校の生徒も、地域の方々のあたたかい思いを感じたと聞いております。それが1年生の取り組みでございました。

2年生は、この地域を支える仕事人の図鑑というものを作っていただきました。60人の南区で働く方々の職場におじゃまして、仕事の心構えや社会人になるにあたっての心構えについて、白根高校の2年生60人が自分の興味のある職場に行き、インタビューをして、その内容をこの地域を支える仕事人の図鑑というものを作っていただきました。南区で仕事をされる方から、南区を紹介していこうという思いで、白根高校が企画してやったものでございます。連携協定の内容としましては、60人全部先生が事前にアポを取ったり、子どもたちが全部いきなりどこへ行ったらいいか分からないということがありましたので、その7割から8割を南区役所の産業振興課のほうで常日ごろからいろいろ仕事の関係でおつきあいある職場にご連絡させてい

ただいて、白根高校がこういうことを考えていますが、お伺いしていいでしょうかということで、南区のほうから先生に代わってお願いをしたという形を取りました。そういうことが連携協定でできることかと思ってやらせていただいたところがございます。これを作るにあたって、初めて2年生一人でアポ取って、行って、インタビューをしてまとめました。インタビュー受けた人は、自分の仕事に対する思いを生徒たちに伝えていただいております。例えば、いたりあん酒場 g o o g o o の川瀬さんの言葉で、学生に伝えたいことということで、「つらいことをたくさん経験したほうが、よい人にも強い人にもなれると思います。苦勞は買ってでも、とにかく苦勞してください。そうすると必ず将来に結びつくので、苦勞をたくさんしてください」と、こういうことをなかなか今の高校生に言ってくれる人は少ないと思うのですが、きちんと伝えていただいて、それを身にしみてレポートにまとめ上げています。非常にいい図鑑ができたと思っております。我々もこういうことをやるのであれば、いくらでも南区役所は協力させていただきますし、地域の人たちもきっと協力していただけるものと思っております。去年の具体的な内容はそういうことをさせていただきました。

○久保委員 よく分かりました。ありがとうございました。

○議長（高橋会長） ほかにございませんか。

○渡邊委員 今回の連携、それから協力事項、大変よかったなと思います。これはあくまでも南区と白根高校との関係ということですが、何らかの事情によって、高校に進めない方がいらっしゃると思うのです。勉強をしたくても、なかなか高校に進学させてもらえない。そういう方のために、日本育英会はたしかありますけれども、そのほかに本当に地域を担う人材の育成に関することに力を入れるのであれば、南区独自の奨学金制度を作ったらどうかということが私の提案です。いかがでしょうか。検討していただければと思います。

○五十嵐区長 区独自の奨学制度というのは、なかなか難しいものと思います。かなりハードルが高いものと思いますが、ご意見については、参考とさせていただきたいとは思っています。

○議長（高橋会長） それでは、なければ新潟市南区と新潟県立白根高等学校との連携・協力に関する協定締結について、白根ハーフマラソンについては、これで終了とさせていただきます。

6 その他

○議長（高橋会長） 続いて次第6その他についてですが、委員の皆様方から何かございますでしょうか。ないようです。

続いて、事務局から何かございますか。

○佐藤健康福祉課長 健康福祉課の佐藤です。日ごろより、健康づくり事業にご理解、ご協力いただきまして、まことにありがとうございます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

私からは、毎年度、ご紹介しております、はかろう体重！あるこう南区！大作戦についてです。お手元にお配りしましたピンク色のカードをご覧ください。これは体重や歩数を測定することをきっかけに健康意識の向上を図ることを目的として実施している事業でございます。コミュニティ協議会や商工会の皆様はじめ、多くの方よりご協力いただきまして、昨年度は706名の方からカードの提出を頂きました。改めて御礼申し上げます。

今年度のカードには、日々の健康管理にさらにご活用いただけるよう、中面をご覧くださいと体温と休肝日、それから運動した日を記録できる欄を新たに設けました。個人、家族、あるいは地域、企業ぐるみなど、多くの方からご参加いただけるよう、皆様からもご参加いただくとともに、ぜひ周りの方にもお声がけをいただきたいと思っております。事業の周知については、コミュニティ協議会にもお願いしておりますが、そのほか皆様ご所属の団体をはじめ、カードを配布させていただける場所がありましたら、ぜひ積極的に健康福祉課までご連絡いただきたいと思います。よろしく願いいたします。健康福祉課からは以上です。

○議長（高橋会長） ほかにございますか。なければ、その他についてはこれで終わりとさせていただきます。

7 次回全体会の日程について

○議長（高橋会長） 続いて、次第7次回全体会の日程についてです。来月は、新潟県知事選挙

による準備のため、この講堂が使用できませんので、味方出張所で開催いたします。開催日は、毎月最終水曜日ということになりますので、5月25日（水）午後2時から味方出張所3階の会議室で開催ということでよろしいでしょうか。では、次回の自治協議会は、5月25日（水）午後2時から味方出張所3階会議室で開催いたします。

8 閉会

○議長（高橋会長） 以上をもちまして、第1回南区自治協議会を終了いたします。大変どうも、皆さんご苦労さまでございました。

（午後3時10分）